

青葉工業会報に掲載されました。

[Topics] 2014年01月29日

青葉工業会報（2013.12 No57）にリーディング大学院に関する記事が掲載されましたので、紹介いたします。ぜひご一読ください。

The screenshot shows a news article from the "Seibutsu Gakkaishi" (Industrial Association Bulletin) No. 57, December 2013. The title of the article is "文部科学省博士課程リーディングプログラム 第2回「東北大学グローバル安全学 トップリーダー育成プログラム」" (Ministry of Education Doctoral Program Leading Program Second Year "Tohoku University Global Safety Science Top Leader Development Program"). The article discusses the program's goals, its implementation, and its impact on students' development.

我が国の将来を担うリーダーを育成することを目的として、文部科学省・博士課程教育リーディングプログラムが実施されています。工学研究科が実施しております「リーダーシップ安全学トッピングプログラム」(平成24年度～平成26年度)が平成24年度に採択され、安全安心分野のグローバルリーダーを育成する取り組みが開始されています。このプログラムの特徴は、明確な人材育成の立て柱と育成の枠を組んで、博士前期後期の3年間一貫教育に立ちつくし「修士学生プログラム」を実施することです。以下に概要をご紹介します。

本企画は最大を誇る東日本大震災は、地理的・社会的には世界レベルで調査した結果であり、その影響は長期間にわたる防衛スクールでの復興が必然となり、被災地域の社会基盤や産業基盤の本格復旧には至っていません。

さらには原子力発電所の再稼働を含めたエネルギー政策の変遷を意識せざるを得ない状況となっています。本プログラムでは、最初の作業として第一種医療安全学生集団で教育を行ない、東日本大震災に代表されるグローバルリーダーから人材・社会・産業を作ることに貢献できるグローバル安全学リーダーを育成するのみならず、各界の企業や国際機関などの各種な分野に活躍することを目指しています。

東日本大震災が明らかにしたことは、防災日本の技術的・社会的・組織的の欠陥や、リーダー層の危機管理能力の欠如です。本プログラムが育成する人材像は、人文学の基礎・問題性・倫理観、そして明確なビジョンを持った学生に実現した確かな知識をもとに自ら考え実行できる能力を有することと共に、教員や世界が直面する、日本文化や評議などの自然災害あるいは気候変動、エネルギー問題などの多様な事象に対応できるグローバル安全学分野のトップリーダー人材です。

本プログラムの特徴は、災害科学国際研究所、工学研究科、環境研究科、環境材料研究科、医学研究科等の各研究科が連携することです。学生は、まず専門科目として人文社会科学研究科（哲学・社会学・歴史学など）を履修します。その後で専門に新設された災害看護科

プロセスコード：モーター
監修：ナカウチ（工学部政務担当）
著者：湯上 浩輔（教員）

開拓研究室が目指す「式典内閣学」に基づく学術的かつ実践的な教育研究を行うと共に、講義からの授業現場での活動や、実習的研究活動を通じて人材を育成することです。さらに人間社会共通の課題である気候変動や、量子力学などで代表されるハイテク・システムへの対応、世界的なエネルギー・資源等の解説に貢献できる人材の育成に取組をしていきます。

リーディングプログラムに選抜された学生は、リーダーシッププログラムを実施して、各自専攻に加えてグローバル安全学教育研究センターに所属して、専門学生会の会議の中で研究発表することです。リーダーとして成長します。本センターには、巡回や登壇を跨いで「安全安心を知る」「安全安心を創る」「安全安心に生きる」というユニークに定めた教員が属し、専門ミンター制度のもとで、学生が主体的に判断するエコ・トヨタ研究的な研究発表会が開催されます。

本プログラムでは、1年生（修士1年生）に30名の学生を選定しております。平成24年度では、学年選抜を実行するために修士1年生を募集し、工学研究科、跨学科研究科、医学研究科、環境研究科に所属する学生から25名の合計数を選択しました。本プログラムでは、複数の一環として「グローバルジョン研修」を実施しております。これは、プログラムに参加する意思のある学生に対して、英文論理構造の重要性、自分の自身の持論セッション内見つけ出し、さらには自分の考え方を相手に伝える練習です。この研修に加えて英語研修を実施したり、英語書籍を読み進捗審査により、直接かかわるリーダーとしての役割がある学生をプログラムに選出させて選抜しました。

会場として予め公表しておいたところでは、25年4月1日に東北大学リーディング大学院総務課解説（准教授・教育担当部署）主導の認定式が開催され、プログラムの教育が開始されました。本プログラムは、専門連携をもとに学生の教育をすることを実現されています。このことから、青葉工業会各位に本プログラムの教育にご協力いただきたい趣意が多いと思います。ご指導ご賜願よろしくお願いします。

セミナー開催地：セミナーハウス
学生認定式：オリエンテーション

文部科学省博士課程リーディングプログラム 「東北大学グローバル安全学 トップリーダー育成プログラム」

プログラムコーディネーター
機械システムデザイン工学専攻 教授 湯 上 浩 雄（教員）

我が国の将来を担うリーダーを育成することを目的として、文部科学省・博士課程教育リーディングプログラムが実施されています。工学研究科が参画しております「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム（平成24年度～平成30年度）」が平成24年度に採択され、安全安心分野のグローバルリーダーを育成する取り組みが開始されています。このプログラムの特徴は、明確な人材育成像のもとで研究科や専攻の枠を超えて、博士前期後期の5年間一貫教育にもとづく「博士学位プログラム」を提供することです。以下に概要をご紹介します。

東北地域に甚大な被害を与えた東日本大震災は、地理的・社会的にグローバルに波及した災害であり、その影響は長期にわたる時間スケールでの復興が必要であり、被災地域の社会基盤や産業基盤の本格回復には至っていません。

さらには原子力発電所の再稼働を含めたエネルギー政策の大転換を議論せざるを得ない状況となっています。本プログラムでは、部局の枠を超えて文系・理系を含む学生集団で教育を行い、東日本大震災に代表されるグローバルデザスターから人命・社会・産業を守ることに貢献できるグローバル安全学リーダーをアカデミアのみならず、世界的企業や国際機関などの多様な分野に輩出することを目指しています。

東日本大震災が明らかにしたことは、防災目的手段の社会合意形成の欠如や、リーダー層の危機管理能力の欠如です。本プログラムが育成を目指す人材像は、人文学の素養、国際性、倫理観、そして明確なビジョンをもち、学術に立脚した確かな知識をもとに自ら考え実行できる能力を有すると共に、我国や世界が直面する、巨大地震や津波などの自然災害あるいは気候変動、エネルギー問題などの多様な事象に対応できるグローバル安全学分野のトップリーダー人材です。

本プログラムの特徴は、災害科学国際研究所、工学研究科、理学研究科、環境科学研究科、文学研究科等の6研究科18専攻が参画することです。学生は、まず基幹科目として人文社会科学科目（哲学・社会学・歴史学など）を履修します。そのうえで本学に新設された災害科学国

際研究所が目指す「実践的防災学」に基づく学際的かつ先端的な教育研究を行うと共に、震災からの復興現場での活動や、世界的研究活動を通じて人材を育成することです。さらに人類社会共通の課題である気候変動や、原子力事故に代表される巨大システム事故への対応、世界的なエネルギー問題等の解決に貢献できる人材の育成に取組を展開していきます。

リーディングプログラムに選抜された学生は、リーディングプログラム院生として、各所属専攻に加えてグローバル安全学教育研究センターに所属して、異分野学生との交流の中で切磋琢磨することで、リーダーとして成長します。本センターには、部局や専攻を跨いで「安全安心を知る」「安全安心を創る」「安全安心に生きる」という3ユニットに分かれた教員が属し複数メンター制度のもとで、学生が主体的に形成するユニット横断的な修学研究チームの指導にあたります。

本プログラムでは1年次（修士1年生）に30名の学生を想定しております。平成25年度では、学年進行を早めるために修士1、2年次学生を募集し、工学研究科、理学研究科、文学研究科、環境科学研究科に所属する学生から32名の合格者を出しました。本プログラムでは、選抜の一環として「グローバルビジョン研修」を実施しております。これは、プログラムに参加する意思のある学生に対して、異文化理解の重要性、自分自身の将来ビジョンの見つめ直し、さらには自分の考えを相手に伝える研修です。この研修に加えて英語研修を実施したうえで、書類審査および面接審査により、意欲が有りリーダーとしての資質がある学生をプログラム院生として選抜しました。

合格した学生に対しては、25年4月1日に東北大学リーディング大学院推進機構（機構長：教育担当理事）主催の認定式が開催され、プログラムの教育が開始されました。本プログラムは、产学研連携をもとに学生の教育をすることを求めてています。このことから、青葉工業会各位に本プログラムの教育にご協力いただく機会が多いかと思います。ご指導ご鞭撻よろしくお願いします。

